

15. ^{かみ こよう}上小用遺跡（第4次調査）

所在地 北巨摩郡白州町鳥原地内
 調査原因 畑地帯総合整備事業
 調査期間 1998年9月21日～3月3日
 調査面積 1,011㎡
 調査主体 白州町教育委員会
 担当者 杉本 充



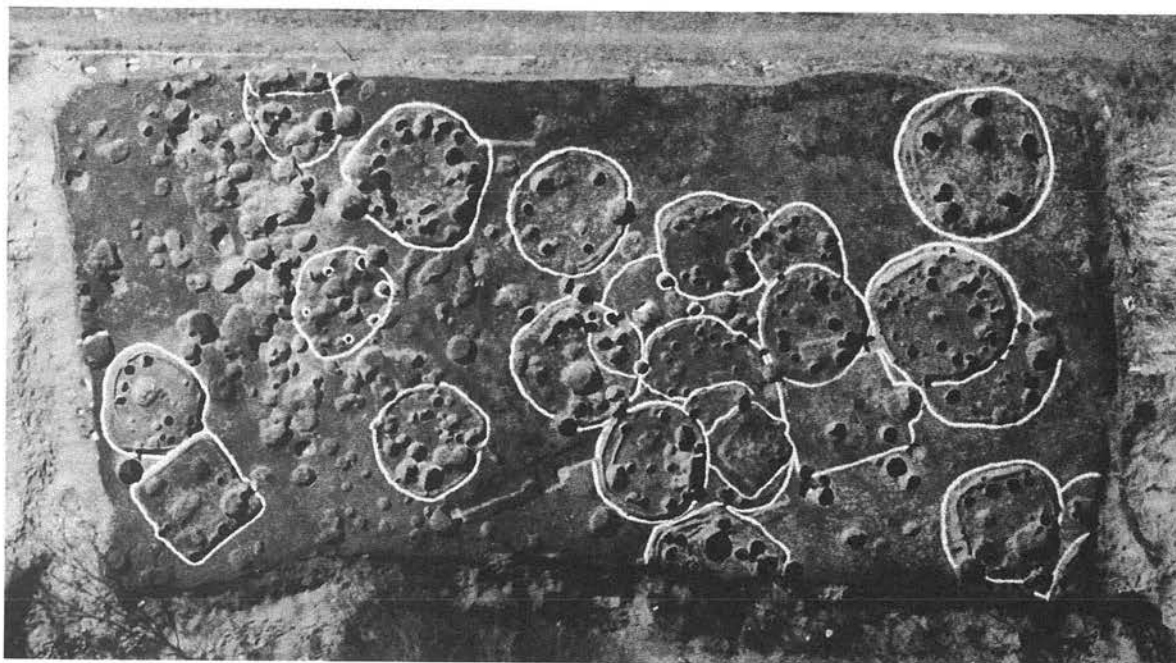
本遺跡は、明石山脈の北部、甲斐駒ヶ岳の前山群を構成する巨摩山地東麓に位置し、1 km程東を北西から南東に流れる釜無川が形成した河岸段丘高位面に立地している。この段丘面（以下鳥原平）の北側は流川に、南東側は松山沢川に削られ、急な段丘崖となっている。現況は、畑及び遊休桑園である。

鳥原平では一面に中世の遺物が散布しているが、段丘の南側には縄文時代中期の遺物が濃密に分布しているため古くから遺跡の存在が知られている。昭和63年度・平成元年度と平成9年度に遺跡範囲と遺構確認のため試掘調査が行われている。

本年度の調査においては、縄文時代中期の竪穴住居址22軒、平安時代の竪穴住居址3軒、土坑群、地下式坑等が検出された。遺物はコンテナ200箱程出土しているが、翡翠製垂飾・黒曜石製異形石器・ミニチュア有孔土器等が特筆される。

引用・参考文献

- 折井 敦 1989 『教来石民部館跡』白州町教育委員会
 折井 敦 1990 『教来石民部館跡』（第2次）白州町教育委員会





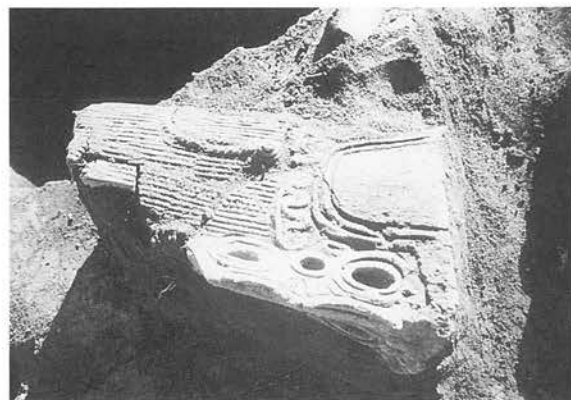
調査区全景



1号住居址



16号住居址



12号住居址



ジョッキ形土器（9号住居址）



ミニチュア有孔土器（7号住居址）



翡翠製垂飾（6号住居址）



黒耀石製異形石器（O-13-1区）